

笑顔で学ぶ

久留米市教育委員会発行
No. 7 (平成25年7月)

くるめっ子通信

知・徳・体を育む教育活動

- ・興味、関心を高めて学力アップ
- ・ボランティアが支える読書活動
- ・全校で体力づくりの取組
- ・計画的な学習で、学力の向上を



力を出し切った後の笑顔は輝いていた

今年も5月中旬から6月上旬にかけて、春の運動会・体育祭が、小学校13校・中学校17校・特別支援学校1校で実施されました。

上の写真の田主丸中学校では、「旋風一起こせ田主丸中の風・創ろう学年を超えた絆」をテーマに、生徒が自ら考え創り上げた応援合戦に、保護者の多くの拍手と他ブロックの生徒の歓声が上がりました。勝ち負けはついたものの、それぞれの生徒は達成感を感じさせる、すてきな笑顔を見せていました。

また、下の写真の荘島小学校では、児童が各競技に一所懸命に取り組む姿に、保護者からは温かい声援と拍手が送られていました。競技後の児童の力を出し切った後の笑顔はとても輝いて見えました。



1校1取組で体力向上

各学校では、今年度、体力向上に向け、「1校1取組」として、各校縄跳び検定やマラソンなど重点化した取組を行っています。

また、体育・保健体育の授業以外で運動をしないと答える子どもの割合が多いことから、学校では外遊びの奨励や運動部活動の活性化に取り組んでいます。ご家庭でも、子どもと一緒に運動したり、地域の体育的な行事に参加したりするなど子どもたちの体力向上にご協力を願います。

「笑顔で学ぶくるめっ子」に向かって 平成 25 年度の拡充事業など

学習支援ボランティアを全小中学校に派遣

久留米市では、市内の小中学生の自学自習の習慣を定着させるために、放課後や夏休みに学生ボランティアの方にお手伝いしていただき、授業で学んだことを復習したり宿題に取り組んだりする学習を行っています。子どもたちから、「わからないところを丁寧に教えてもらえるから嬉しい。」「やさしく教えてもらって勉強が楽しくなった。」といった声がたくさん聞かれるようになりました。

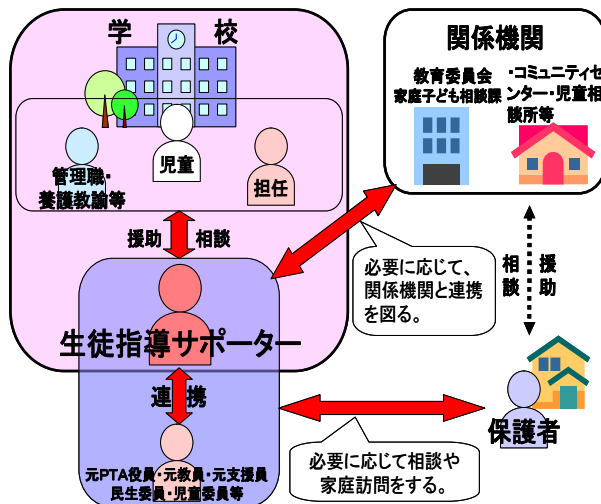


本年度は全小中学校63校の派遣拡大に向け、学生の方々に加え地域の方にもボランティアの協力をお願いしています。写真は西牟田小学校での学習の様子です。放課後の子どもたちの笑顔が増えています。

「不登校の予防と解消」に向けた取組を充実

○生徒指導サポーターを 15 校に配置 (昨年度比 +8 小学校)

関係機関との連携を図りながら、家庭訪問や保護者からの相談等に対応する生徒指導サポーターを今年度から増員し、小学校15校に配置しています。



○校内適応指導教室助手を中学校 11校に配置

(昨年度比 +7 中学校)

中学校において、教室以外の居場所である「校内適応指導教室」で教育相談や、学習支援を行う支援員を増員しました。生徒が段階的に教室へ復帰できるように取り組んでいます。

○市教育委員会の体制強化 (人員増、スクールカウンセラー配置)

教育委員会事務局の相談機能の充実や対応力の強化などを図るため、専門的知識を有する職員の増員(1名)及びスクールカウンセラーの配置(1名)などの体制強化を行いました。各学校と連携しながら、課題が大きい不登校事案などに対応しています。

知・徳・体を育む教育活動

興味・関心を高めて学力アップ



市立小・中学校では、「確かな学力」を育成するために、デジタルテレビやパソコンなどICT機器を効果的に活用した授業が行われています。

写真は、江上小学校の国語の学習の様子です。子どもが友達に伝えたい事を考え、その内容に合わせて、デジタルカメラで、校内の植物などの写真を撮り、説明している場面です。このように、授業にICT機器を活用して、児童生徒の興味・関心を高める授業づくりが図られています。

ボランティアが支える読書活動

市立小・中学校では「豊かな心」の育成のため、読書活動を推進しています。

写真の南小学校は、昨年度の図書貸出冊数が10万冊に達しました。これは年間1人当たり100冊の本を読んだ計算になります。この活動を支えるのが「本と子どもをつなぐ会」と「南っこひろば」のボランティアグループです。定期的に読み聞かせや本のメンテナンスを行っています。ボランティアのこのような活動により、本に向かう子どもたちの輝く笑顔を見ることができます。



全校で体力づくりの取組



市が推進している子どもたちの「健やかな体」の育成のため、各学校では体育の授業などの充実を図っています。

日吉小学校では、体育の授業の工夫や朝のなわとび活動などによる体力作りに取り組んでいます。写真は、体育の授業「リングゲーム」の様子です。リングゲームは、バスケットボールに似たスポーツで、ゴールが低い位置にあるので、子どもたち全員が積極的に競技に参加し、体を動かすことができます。このような取組を通して、体力づくりを推進しています。

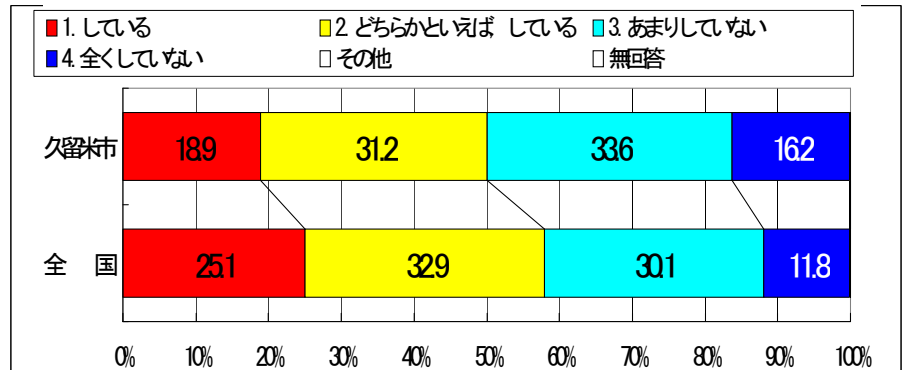
計画的な学習で、学力の向上を

平成24年度全国学力・学習状況調査において、本市の小・中学生の平均正答率は、残念ながら全国平均を下回っています。

右のグラフに示されているように、計画的な学習習慣が身につけていない子どもの割合が、全国平均よりも高いことが要因の一つとして考えられます。

児童生徒の学力を向上させるために、各学校では、よりきめ細かな指導の充実やわかりやすい授業づくりに努めるとともに、家庭と連携し、家庭学習の充実に取り組んでいます。もうすぐ、40日間の夏休みを迎えます。学校と家庭が協力して、夏休み期間中の計画的な学習により、学力の向上をめざしましょう。

「家で、計画を立てて学習しますか？」に対する回答の状況（小学校6年生）



出典：H24年度全国学力・学習状況調査

親子で学ぶ夏休み - 3つのすすめ -



1 夏休みは、学習計画をしっかりと立てて取り組みましょう

夏休みは、学習計画を立てていないとダラダラ過ごしてしまったり、後半あわててしまったりすることがよくあります。夏休みに入る前に、無理がなく見通しのある計画を立てましょう。小学生は、親子で計画をたてましょう。朝の涼しいうちに学習の習慣をつけることも大切なことです。中学生は、部活や習い事などもあるので、自分のスケジュールにあった継続できる計画を立てさせましょう。

2 子どもをほめて、はげませましょう

毎日の学習が計画どおりできているのか、親子で点検・確認することが大切です。親子でやることで、子どものがんばりやできているところを見つけることができます。そのことをほめて、はげませましょう。夏休みの課題をやり遂げさせ、自信を持たせることが、やる気をもたせ、2学期からの学習意欲につながります。

3 夏休みにしかできないことを体験させよう

日々の家庭学習とはちがう、体験や自由研究ができるいい機会でもあります。夏休みだからできる体験や自由研究（動植物の観察・海や山での体験など）に取り組みましょう。

特別奨学金スポンサー募集

特別奨学金は、経済的な理由により高等学校等に就学することが難しい生徒に対して奨学金を給付する、久留米市独自の制度です。平成13年に善意の寄附により始まりましたが、寄附金が残りがなくなり、制度の存続が危ぶまれています。本奨学金の制度を続けていくために、皆さまからの寄附をお待ちしております。

※寄附金のうち、2千円を超える額については、一定の限度まで個人住民税及び所得税の寄附金控除の適用を受けることができます。

久留米市イメージキャラクター



久留米市教育委員会 総務・学校教育課
〒830-8520 久留米市城南町15番地3
TEL0942-30-9213 FAX 0942-30-9719
E-mail:kyousou@city.kurume.fukuoka.jp